

# Dappe

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

8

シテイラスト。

うっちやれ、



## 写真展 やります。

移住相談窓口も開設します。

道の駅保田小学校 2F まちの縁側  
8月1日～8月31日 10時～17時

※在廊する日程は Facebook と  
Instagram でお知らせします。

この町の  
どこか

この町は どこか切ない  
この町は どこか優しい  
この町は どこか寂しい  
この町は どこか温かい  
この町は どこか美しい  
この町は どこか懐かしい  
この町の どこかを伝えたい



8/1 - 8/31

10:00 - 17:00  
道の駅保田小学校 2F まちの縁側

室井翼  
写真展  
Tsubasa Muroi  
Photo exhibition

こんにちは、地域おこし協力隊の室井翼です。この度、道の駅保田小学校の「まちの縁側」を使わせていただき、写真展を開催します。観光施設として毎日多くの観光客が訪れる保田小学校ですが、鋸南町の魅力はいわゆる観光スポットとしてPRされている場所だけではありません。町のあらゆるところに心癒される「何か」があり、それが重なり合って、懐かしく郷愁を覚えるような空気が生まれていると思います。それを多くの人に伝えたく、写真展を開催することにしました。



### Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊  
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)  
〒299-1902  
千葉県安房郡鋸南町保田66-1  
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼  
編集 室井翼

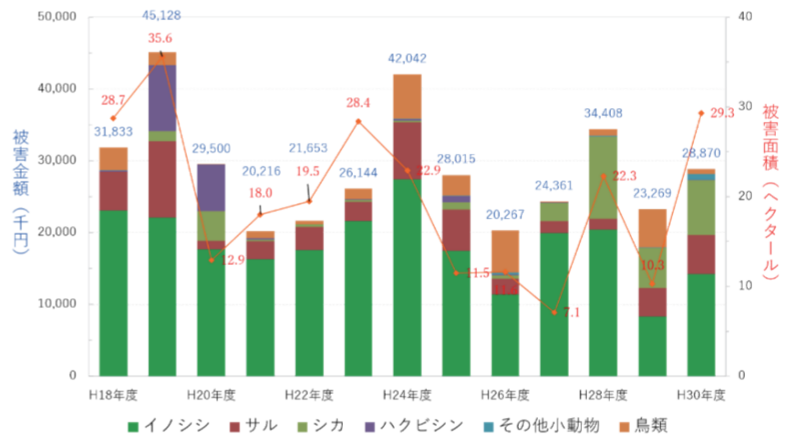


これからは！地域おこし協力隊、有害鳥獣対策担当の黒澤です。

さて、平成30年度の鋸南町における有害鳥獣の捕獲数と被害規模について述べてみます。まず、被害規模については被害金額と被害面積の傾向についてはグラフ1を参照下さい。

農家さんからの申告がベースとなっています。個人的にはこのグラフに、「被害感情」という観点があってもいいと思っています。対策の効果を測る一つの指針になるかもしれません。

グラフ1



### 被害感情とは？

例えば、「昨年と比べて被害は減ったよ」に感じるか？（あるいは増えたと感じるか？）「最近、被害が減ってきたのでやめていた耕作を再開してみようかと前向きな気持ちになった（あるいは被害が増えて農業を辞めようと思ってる）」、「野生動物は見かけるが直接的な被害には至っていないので許せる（あるいは許せない、憎い）」「いままではどうしたらいいかか途方に暮れていたが、今は対策の具体的な手法を勉強したので頑張ってみようと思う（あるいは諦めた）」とか。「取り組んだ対策が徐々に効果があがってきてうれしい（あるいは対策が進まず悲しい、辛い）」、など。

地域おこし協力隊の清水です。鋸南町に移住してから、一年が経過しました。

これまでの「DAPPE」では、イベントの記事を主に書いてきましたが、今月号からは、私の1か月の活動を報告していきます。

## 東京・新宿で鋸南町のPRをしてきました。



東京・新宿にあるシェアオフィス「HAPON 新宿」で、7月10日、「南房総の狩猟」に関するイベントが開かれ、鋸南町の猟師さんも参加したので、参加者にむけて私も町のPRをしてきました。東京で町のPRをするのは、観光促進のためには大切なことと考えているので、今後も続けてまいります。

## 「南房総二拠点計画」で記事の執筆を始めました。



本日、ご紹介しました「南房総の狩猟」のイベントについては、「南房総二拠点計画」というサイトで記事にしましたので、よろしければご覧ください。このウェブサイトでは今後、定期的に鋸南町のことを書いていきますので、お楽しみに。

南房総二拠点計画  
ホームページ



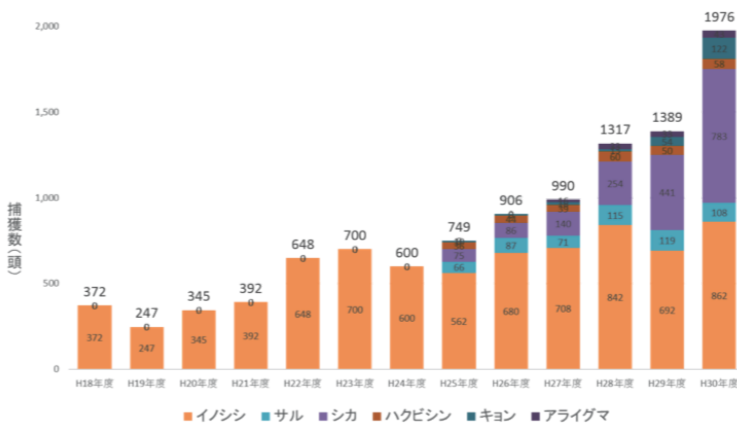
<https://minamiboso-2kyoten.jp>

## 「いすみ市のまちづくり」について講演を聞きました。



いすみ市は、移住専門雑誌の「住みたい田舎ランキング」で首都圏エリア総合1位を獲得するなど、移住者に人気の街として知られています。7月18日、御宿町でいすみ市の職員とNPO法人のスタッフが移住に関する10年間の施策について講演をされたので、聞きに行ってきました。聞いてわかったのは、「地元の協力者を集め、移住を希望する人の声を聞きながら、実際に移住政策に取り組んできた」ということ。他地域の事例を参考にしながら、今後の活動に活かしてまいります。

グラフ2



次に捕獲数について。昨年比でイノシシは25%増加の862頭、鹿は78%増加の783頭。キョンは126%増加の122頭。サルは9%減少の108頭、ハクビシンは16%増加の58頭。アライグマは30%増加の43頭。合計1976頭で、有害獣全体では42%増加という結果です。捕獲数増加の傾向はグラフ2を参照下さい。鹿の捕獲数が大幅に増えています。印象としては、鋸南北部、東部エリアにお隣の富津市、鴨川市からの流入、鋸南町内の耕作放棄地等での繁殖が考えられます。

捕っても捕っても、行政区をまたいで野生動物が流入してくるようです。鋸南町の地域おこし協力隊を退任後は、お隣の富津市や鴨川市、南房総市などへも活動の範囲を拡大し、結果として鋸南町の被害を減らす効果も上がるのではないかと考えています。行政をまたぐ活動は、民間ならではの強みが活かせるかもしれません。

これだけの捕獲ができる集落体制ができていて、という意味では全国的にも珍しい地域と言えます。ちなみに捕獲のための罠は、町内で箱わなが152基、くくりわなが356基稼働（平成30年度）しています。これに4月及び7月〜9月を除く年間で、実施隊が行う巻き狩りによる銃猟が行われており、11月15日〜2月15日の狩猟期間は町内外のハンターさんによって狩猟鳥獣の捕獲がされています。町内の担い手は協議会会員（銃猟、わな猟等の免許所持者）が89名（うち銃猟を行う実施隊員数は27名）、約45kmの町内各地で活動しています。1km当たり43頭の捕獲を89名の捕獲従事者が行っているということは、従事者1名当たり年間約20頭の捕獲。これほどの捕獲を行う地域は国内でも稀で、決して軽い負担ではないと思います。（つづく）。

## 「めずらしい野菜」のメニュー開発に取り組んでいます。



保田にあるコミュニティカフェ「幸せカフェ」とコラボし、新しいプロジェクトを始めました。「おもしろい野菜を食べよう！プロジェクト」です。鋸南町にある「おもしろい野菜」にフューチャーし、地元の人に食べることを楽しんでいただく企画。都会の人にもこの「おもしろい野菜」に興味を持っていただき、野菜を通じて、鋸南町を知っていただくのが目的です。8月は「おおいにんにく（通称、ジャンボニンニク）」を使用したメニューを、このカフェで提供いたします。「幸せカフェ」は、保田神社裏側の道を下ったところにあります。営業時間は、金曜日と土曜日の午前10時〜午後3時まで。写真は、「幸せカフェ」でメニュー開発をしてくださっているスタッフのみなさまです。9月からは、別の「おもしろい野菜」を使ったメニューに切り替えます。